

講義名称	卒業研究 I	担当教員名	高山 有紀
科目群	必修 (REQ)		
科目区分等	卒業研究	単 位	2
対象学年次	2年・春学期	ナンバリング	REQ211

授業のキーワード	日本文化史、子どもと社会、学校教育史
授業の概要	日本文化、学校教育あるいは子どもに関わるテーマをひとつ選び、社会との関係を含め歴史的に概観します。さらに今後どうなっていくのか、についても考察します。
期待される学習成果 (目標)	1、日本文化史、学校教育史を通じて、日本の社会の成り立ちについて理解を深めることができます。 2、身近な日本文化に関心を持ち、視野を広げることができます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明します。
2	教育問題の実情	現在話題になっているいくつかの教育問題について説明します。
3	教育の歴史①	子どもと家庭教育の歴史について学びます。
4	教育の歴史②	子どもと家庭教育の歴史について学びます。
5	教育の歴史③	子どもと家庭教育の歴史について学びます。
6	教育の歴史④	子どもと家庭教育の歴史について学びます。
7	教育の歴史⑤	子どもと家庭教育の歴史について学びます。
8	中間のまとめ	前講までの学びを総括します。
9	ゼミ論文の準備①	各自ゼミ論文の構想を練ります。個別相談も行います。
10	ゼミ論文の準備②	各自ゼミ論文の構想を練ります。個別相談も行います。
11	ゼミ論文の準備③	各自ゼミ論文の構想を練ります。個別相談も行います。
12	ゼミ論文の準備④	各自ゼミ論文の構想を練ります。個別相談も行います。
13	ゼミ論文の準備⑤	各自ゼミ論文の構想を練ります。個別相談も行います。
14	ゼミ論文の準備⑥	論文の書き方について説明します。
15	まとめ	本講での学びを総括します。夏休み中に行うべきことを示し、確認します。

定期試験	ゼミ論文の構想と作業計画をまとめて提出してもらいます。
授業時間外学習	第1～5講では、ゼミ論のテーマを決めるための下調べを行います。相談しながら進めます。第6～10講では、参考文献を探し、ゼミ報告の準備をします。第11～15講は章立てを考えてもらいます。
評価方法	授業への取り組み (30パーセント)、課題に対する評価 (70パーセント) により総合的に評価します。
使用する教科書 (必ず購入してください)	
参考文献	小山静子『子どもたちの近代—学校教育と家庭教育—』吉川弘文館 佐藤秀夫『教育の文化史2 学校の文化』阿吡社 永井聖二ほか編『消費社会と子どもの文化』(子ども社会シリーズ6) 学文社